



N035 発達障がいのある子どもへの理解と対応

— 教育センター公開講座から —

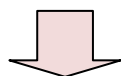
今回からはシリーズで、過日開催されました「教育センター公開講座」における田中康雄先生（北海道大学大学院教育学研究院教授）の講演内容についてお伝えいたします。

田中先生は、児童精神科医として外来診察をする傍ら、積極的に学校現場に出向き児童生徒や教職員を支援するという活動を続けています。豊富な事例をもとにした「発達障がいのある子どもへの理解と対応」についてのお話は、具体的で分かりやすく、翌日からの実践に繋がるヒントが詰まっていました。



1 発達とは…

- ・ 発達とは外から与えられるという一方的な過程ではなく、個々の子どもたちが、自らのなかに可能性として宿しているものを開花させていく主体的過程である。—（白石，田中）
- ・ 手持ちの力を使い、いまのできなさを引き受けて、なんとかやりくりしながら、自分の最大限をそのつど生きていくなかで初めて、次の力は伸びてくる。発達とはあくまで結果であって、目標ではない。—（浜田）



“発達”と“教育”は、同じ世界を持っている

そもそも子どもは、できなさを引き受けながら、頑張っているのね。



2 発達の障がいを定義する

発達途上に生じた道筋の乱れ(disorder)であり、その乱れによって社会的な適応が損なわれているもののみを障がいと呼ぶ。—（杉山，2005）



“道筋の乱れ”は、個人差はあっても、誰にでもあることなので、大事なことは診断名があるかどうかではなく、生活上で不都合さや不便さが生じているかどうかということなのです。



【豆知識】

日本では“障害”と表記するのに対し、中国では“障碍”と表記。

“障碍”とは「川の流れを大きな石でせき止める」という意味で、日本の「差し障りのある悪いもの」という印象とは異なる。

